

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：84426

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381157

研究課題名(和文) 社会的困難を有する若年者のリテラシー実態とその支援に関する実証的研究

研究課題名(英文) Substantial study about literacy problem among the youth in difficulties and support programs for them

研究代表者

岩槻 知也 (IWATSUKI, TOMOYA)

一般社団法人部落解放・人権研究所(調査・研究部)・その他部局等・研究員

研究者番号：60263191

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本調査研究では、困難を有する若者の実態とその支援のあり方について、リテラシーという概念に着目して整理・検討することを目的とした。そうした問題意識のもと、困難を有する若者を支援する団体や当事者(若者)に対する聞き取り調査を実施した。

その結果、支援にあたっては、居場所の提供や信頼できる人間関係の構築、基本的な生活習慣の確立がまず必要であること、そのうえで、若者の背景をつかみ、寄り添いながら、かれらの主体性を育てていくことが求められる、ということが明らかになった。くわえて、関係する団体や機関が連携することで、重層的かつ継続的な支援が可能となることもわかった。

研究成果の概要(英文)： In this research, we tried to think about literacy problem among the youth in difficulties and support programs for them. Then, we carried out the hearing investigation for the youth in difficulties and staffs of some groups that support them.

As a result, we found that it was important to construction the place of her/his own, the reliable relationship with staffs, the basic lifestyle her/himself in support for the youth in difficulties. And then, it was important too that brought up her/his independence through grasping social backgrounds of the youth in difficulties, close to her/him. In addition, we found that cooperating some groups and institutions made it possible to multitiered and continuous supports.

研究分野：社会教育

キーワード：若者支援 リテラシー 識字 成人基礎教育

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本においても、若年の失業者や無業者、フリーター等の急激な増加に伴い、「社会的困難を有する若年者」に対する関心が高まっている。このような状況の中、2000年代以降には、当該若年者を対象とした量的及び質的な調査研究が徐々に蓄積されてきた。

これら一連の研究結果を概観すると、不安定な家庭の出身者が十分な教育を受けられないまま早期に学校を離れ、「低学力問題」を抱えたまま、安定した職業に就くこともなく、再び不安定な成人期に移行していくという共通のプロセスが見出される（小杉、2005；部落解放・人権研究所、2006）。そのような状況にある若年者の支援策については、さまざまな施策のもとに模索が続いている。

## 2. 研究の目的

上記のような背景にもとづき、本調査研究では、これまで問題視されながら十分にその実態が解明されてこなかった当該若年者の「リテラシー」の問題に焦点を当て、その現状の把握及び特徴の分析を行うとともに、それらを踏まえた「成人基礎教育（adult basic education）」等の支援方策について実証的に検討を加える（上杉、2000；添田、2012）ことを目的とする。

## 3. 研究の方法

本調査研究では、社会的に困難を有する若年者を対象として支援等を行っている団体・組織を訪問し、そこの支援者ならびに被支援者に対する聞き取り調査等を、2013・2014年度に実施した。具体的な対象としては、更生保護施設、自主夜間中学、識字学級で、地域若者サポートステーション、公立夜間中学校、フリースクール、進路多様校である。これらの調査をとおして、各支援団体・組織の現状と課題、被支援者（困難を有する若年者）の実態とかれらに対する支援のあり方について考察を進めた。

上記の調査結果とあわせて、日本国内における若年者支援に関連する諸制度・施策や海外（イギリス、アメリカ、韓国）の成人基礎教育施策・実践の動向、PIAAC（国際成人力調査）の結果の検討などをしたうえで、「リテラシー」概念の整理を行った。

## 4. 研究成果

各支援団体への聞き取り調査の結果からは、支援にあたっては、居場所の提供や信頼できる人間関係の構築、基本的な生活習慣の確立がまず必要であること、そのうえで、若者の背景をつかみ、寄り添いながら、かれらの主体性を育てていくことが求められる、ということが明らかになった。くわえて、関係する団体や機関が連携することで、重層的かつ継続的な支援が可能となることもわかった。

他方で、「困難を有する」若者のリテラシーや生活などの実態について総体的に把握する調査の実施と、リテラシー概念の整理については、今後の課題として残った。

## [参考文献]

部落解放・人権研究所（2006）『フリーター 選択の構造と過程―「高校生の生活と進路意識調査」報告書』。

小杉礼子編（2005）『フリーターとニート』、勁草書房。

添田祥史（2012）「釧路市における格差・貧困問題と成人基礎教育―釧路自主夜間中学『くるかい』の現場から」北海道教育学会編『教育学の研究と実践』第7号。

上杉孝實（2000）「識字と成人基礎教育について」大阪府教育委員会編『こんな居場所をつくりたい』

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕（計12件）

① 岩槻知也、特集にあたって なぜ、いま「若年者のリテラシー」なのか？、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.2-9。  
[http://www.blhrii.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrii.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

② 上杉孝實、欧米の成人基礎教育と日本の社会教育 批判的リテラシーの関連において、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.10-21。  
[http://www.blhrii.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrii.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

③ 松下一世、学校を離脱した子どもへの支援 「田川ふれ愛義塾」におけるエンパワメントアプローチの試み、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.22-40。  
[http://www.blhrii.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrii.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

④ 知念渉、非行系青少年支援における「男性性」の活用 文化実践に埋め込まれたリテラシーに着目して、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.41-52。  
[http://www.blhrii.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrii.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

⑤ 添田祥史、若者への学び直し支援の実態 釧路自主夜間中学「くるかい」の現場から、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.53-64。  
[http://www.blhrii.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrii.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

⑥ 棚田洋平、地域におけるリテラシー支援の場としての識字学級 困難を抱える若年者にとっての識字、部落解放研究、査読無、199号、2013、pp.65-76.

[http://www.blhrrr.org/old/info/book\\_guide/kiyou/kiyou\\_0199.html](http://www.blhrrr.org/old/info/book_guide/kiyou/kiyou_0199.html)

⑦ 添田祥史、識字実践がつくる／をつくる〈ことば〉、社会教育学研究、査読有、51号、2015、pp.30-31.

⑧ 添田祥史、自治体職員のライフヒストリーと社会教育学研究、社会教育・生涯学習研究所年報、査読有、10号、2015、pp.33-39.

⑨ 新矢麻紀子・棚田洋平、日本語教室不在地域における国際結婚移住女性のリテラシー補償と社会参加 生活史と学習環境に着目して、大阪産業大学論集人文・社会科学編、査読有、26号、2016、pp.27-52.

[http://ci.nii.ac.jp/els/110010016571.pdf?id=ART0010579061&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1467175840&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110010016571.pdf?id=ART0010579061&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1467175840&cp=)

⑩ 岩本陽児・棚田洋平・添田祥史、東アジアと日本の識字教育の20年 研究・実践・政策・交流のこれまでとこれから、東アジア社会教育研究、査読無、20号、2015、pp.39-48.

⑪ 上杉孝實、権利としての教育保障をすべての人に、GLOBE、査読無、81号、2015、pp.16-17.

⑫ 藤根雅之、オルタナティブスクールの組織間ネットワークと市民的公共性、社会教育学研究、査読有、51巻2号、2015、pp.45-54.

#### 〔学会発表〕(計15件)

① 松下一世、学校を離脱した子どもの社会的自立とリテラシー 5人の語りから、日本子ども社会学会、2013年6月30日、関西学院大学(兵庫県・西宮市)

② 松下一世、学校を離脱した子どもへの支援 更生保護施設におけるエンパワメントアプローチの事例から、日本教育社会学会、2013年9月21日、埼玉大学(埼玉県・さいたま市)

③ 岩槻知也・添田祥史・棚田洋平、「社会的困難を有する」若年者支援に関する実証的研究 生活とリテラシーの実態を踏まえて、日本社会教育学会、2013年9月28日、東京学芸大学(東京都・小金井市)

④ 添田祥史、識字実践がつくる／をつくる〈ことば〉、日本社会教育学会プロジェクト、2014年7月6日、東箱崎公民館(福岡県・福岡市)

⑤ 添田祥史、識字実践がつくる／をつくる〈ことば〉、日本社会教育学会、2014年9月28日、福井大学(福井県・福井市)

⑥ 知念渉、〈インキャラ〉とは誰か 男子高校生たちのジェンダー実践、関西教育社会学研究会、2014年8月23日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)

⑦ 知念渉、〈ヤンチャな子ら〉の学校から仕事への移行、関西教育社会学研究会、2015年2月22日、広島大学(広島県・東広島市)

⑧ 藤根雅之、オルタナティブな教育の組織間ネットワークと市民的公共性、日本教育社会学会、2014年9月13日、松山大学(愛媛県・松山市)

⑨ 藤根雅之、オルタナティブな教育の組織間ネットワークの展開過程、日本社会教育学会・韓国平生教育学会、2014年11月30日、東北大学(宮城県・仙台市)

⑩ 新矢麻紀子・棚田洋平、国際結婚移住女性の生活・学習環境づくりに向けたアクション・リサーチ リテラシーを保障／補償するコミュニティをめざして、日本社会教育学会、2015年9月19日、首都大学東京(東京都・八王子市)

⑪ 添田祥史、北九州市における夜間中学増設運動の展開、日本社会教育学会、2015年9月19日、首都大学東京(東京都・八王子市)

⑫ 上杉孝實、社会教育学研究の対象と方法 自らの研究を省みて、日本社会教育学会、2015年9月20日、首都大学東京(東京都・八王子市)

⑬ 藤根雅之、フリースクールにおける「学習」とその支援 「居場所」のローカルリテラシー、日本子ども社会学会、2015年6月27日、愛知教育大学(愛知県・刈谷市)

⑭ 知念渉、〈ヤンチャな子ら〉の学校から仕事への移行、日本教育社会学会、2015年9月9日、駒澤大学(東京都・世田谷区)

⑮ 知念渉、生徒類型別にみる大人への移行過程、西日本教育社会学研究会、2016年3月14日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)

#### 〔図書〕(計2件)

① 添田祥史他、国土社、自治の力を育む社会教育計画、2014、219

② 岩槻知也他、岩波書店、学力格差是正策の国際比較、2015、242

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

岩槻知也 (IWATSUKI, Tomoya)

一般社団法人部落解放・人権研究所・調査・研究部・研究員

研究者番号：60263191

### (2)研究分担者

棚田洋平 (TANADA, Yohei)

一般社団法人部落解放・人権研究所・調査・研究部・研究員

研究者番号：00639966

松下一世 (MATSUSHITA, Kazuyo)

佐賀大学・文化教育学部・教授

研究者番号：80457457

添田祥史 (SOEDA, Yoshihumi)

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：80531087

上杉孝實 (UESUGI, Takamichi)

公益財団法人世界人権問題研究センター・その他部局等・研究員

研究者番号：90031707

### (3)研究協力者

知念渉 (TINEN, Ayumu)

大阪大学・助教

藤根雅之 (Fujine, masayuki)

大阪大学・大学院生